

適正規模・適正配置の考え方
(学校規模、通学距離等の基準の検討)

1. 学校規模について

(1) 国の基準

学校教育法施行規則 第41条

小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

- ・同第79条において中学校にも準用

解説：学校規模の標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」とされている弾力的なものであり、実際の判断については、学校設置者である各市町村が、当該学校が都市部にあるのか、過疎地にあるのか等も含め、地域の実情に応じたきめ細かな分析に基づいて行うべきものです。

出典：「文部科学省公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月）」

(2) 1学級当たりの人数

- 公立小・中学校の学級編成は、「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律」（以下「法律」という。）で示されている学級編成を基準として、都道府県の教育委員会が定めることとされている。
- 神奈川県「学級編成基準」は、法律同一の基準となっている。

【神奈川県の学級編成基準】

校種	学年	1学級の児童数	校種	学年	1学級の生徒数
小学校	1～6学年	35人（※）	中学校	1～3学年	40人

※「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律（令和3年4月1日施行）により、令和7年3月31日までの間における学級編成の標準については、児童の数の推移等を考慮し、第2学年から第6学年まで段階的に35人とする。

【35人学級への移行経過措置】

年度	R3	R4	R5	R6	R7
学年	小2	小3	小4	小5	小6

1. 学校規模について

(参考) 県内他市の適正規模基準

①小学校

	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模
横浜市	-	11学級以下	12学級～24学級	25学級～30学級	31学級以上
川崎市	-	11学級以下	12学級～24学級	-	31学級以上
相模原市	11学級以下	-	18学級～24学級	-	31学級以上
横須賀市	6学級未満	6学級～11学級	12学級～24学級	25学級～30学級	31学級以上
藤沢市	6学級未満	6学級～11学級	12学級～24学級	25学級～30学級	31学級以上
茅ヶ崎市	-	-	12学級～24学級	-	31学級以上
厚木市	-	-	12学級～24学級	-	-
大和市	-	11学級以下	12学級～18学級	-	31学級以上
綾瀬市	-	11学級以下	12学級～24学級	25学級以上	-

②中学校

	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模
横浜市	8学級以下	9学級～11学級	12学級～24学級	25学級～30学級	31学級以上
川崎市	-	11学級以下	12学級～24学級	-	31学級以上
相模原市	5学級以下	-	15学級～21学級	-	31学級以上
横須賀市	3学級未満	3学級～11学級	12学級～24学級	25学級～30学級	31学級以上
藤沢市	3学級未満	3学級～11学級	12学級～24学級	25学級～30学級	31学級以上
茅ヶ崎市	-	-	12学級～24学級	-	31学級以上
厚木市	-	-	9学級～18学級	-	-
大和市	-	11学級以下	12学級～18学級	-	31学級以上
綾瀬市	-	8学級以下	9学級～18学級	19学級以上	-

1. 学校規模について

(3) 大規模校・小規模校のメリット/デメリット

①大規模校

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> 切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲の向上が図りやすい。 グループ学習や班学習が活性化しやすい。 音楽、体育等の集団で行う活動や、クラブ活動が活性的しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動や学校行事等において、一人ひとりが活躍する場や機会が少ない。 児童生徒一人当たりの校舎面積、運動場面積が狭くなり、教育活動の展開に支障が生じる場合がある。 特別教室や体育館、プール等の利用で割り当てが難しくなる。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> 気の合う友人を作りやすい。 男女比の偏りが発生しにくい。 多様な意見に触れる機会が得やすく、コミュニケーション能力が育ちやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくい。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教職員が多面的な観点で指導しやすい。 校内研修の活性化など、教職員間での協力意識が高まりやすい。 児童・生徒の人間関係を考慮したクラス替えが実施しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が児童生徒一人ひとりの個性や行動を把握し、きめ細かな指導を行うことが難しくなる。 学校運営全般にわたり、校長が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が共通理解を図るうえで支障が起こる場合がある。 教室不足により、特別支援教室等新しいニーズへの対応が難しい場合がある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動の活性化や、学校と地域との連携協働関係が強化されやすい。 	

②小規模校

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの学習状況を的確に把握でき、きめ細やかな指導が行いやすい。 意見や感想を発表できる機会が多くなる。 運動場や体育館、特別教室が余裕をもって使える。 異年齢の学習活動を組みやすい。体験学習や校が学習を機動的に行える。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導体系が取りにくい。 グループ学習や班行動が行いにくい。 クラブ活動や部活動の種類が限定される。 球技や合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 男女比に偏りが生じやすい。 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。 多様なものの見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などを把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導上課題がある子供の問題行動に、クラス全体が大きく影響を受ける クラス替えが全部または一部の学年でできない。 教員それぞれの専門性を生かした教育が受けられない可能性がある。
その他		<ul style="list-style-type: none"> PTA活動等で、保護者の負担が大きくなる。

1. 学校規模について

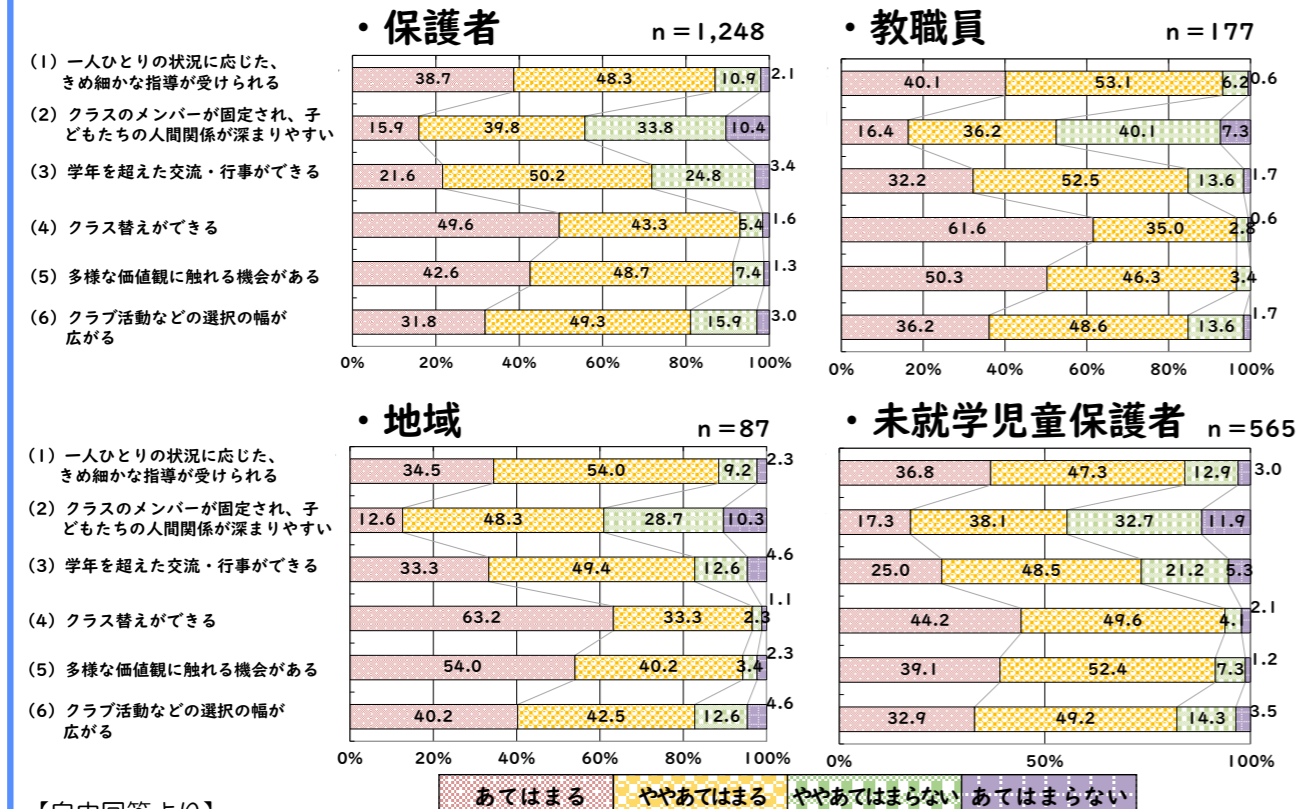
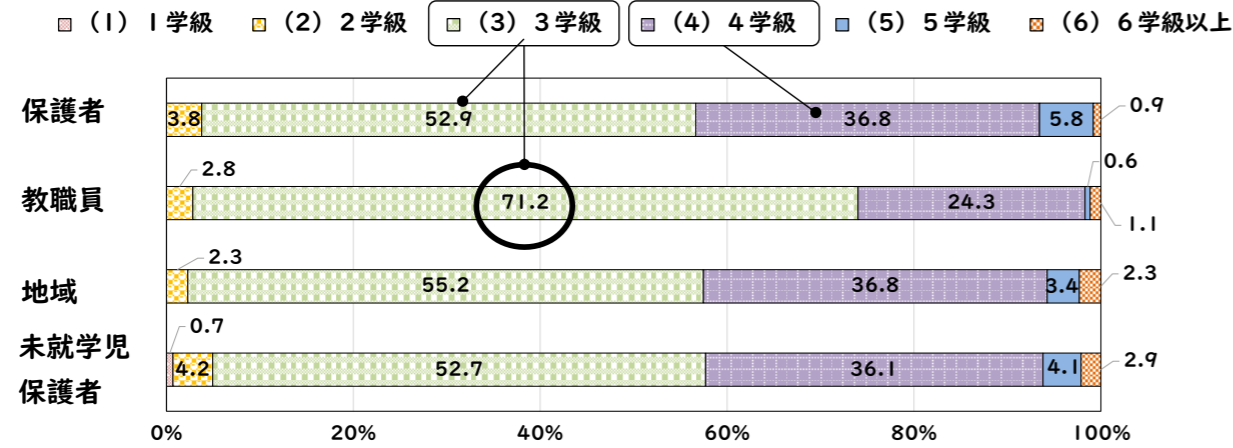
(4) 座間市立小・中学校の教育環境に関するアンケートより

設問：小学校（中学校）の1学年当たりの学級数は、どのくらいの学級数がいいと思いますか

● 小学校

1学年あたり望ましい学級数とその理由（小学校）

R4年度実績では、
2学級～4学級で望ましい範囲内



- 【自由回答より】
- 今は過保護になりすぎているため、集団の中で揉まれた方が良いかと考えます。【保護者】
 - クラス間での競争を促しやすい。【保護者】
 - 担任の数が多ければ、様々な意見交換ができ、より良い学年になると考えたから。【保護者】
 - 現在の2クラスは関係が濃い。中学は他校からの生徒の方が多いため、環境の変化が心配。【保護者】
 - 教師の校務分掌の負担を考えると、3クラスあって欲しい。【教職員】
 - 学級数が少なすぎると、合わない子やいじめなどがあつたときにクラスを離すことができない。【地域】
 - ひとクラスの人数を少なくして、クラス数を多くして良いと思います。ただ、たとえば芸術授業や体育などは、2、3クラス合同などでも良いと思います。【未就学児保護者】

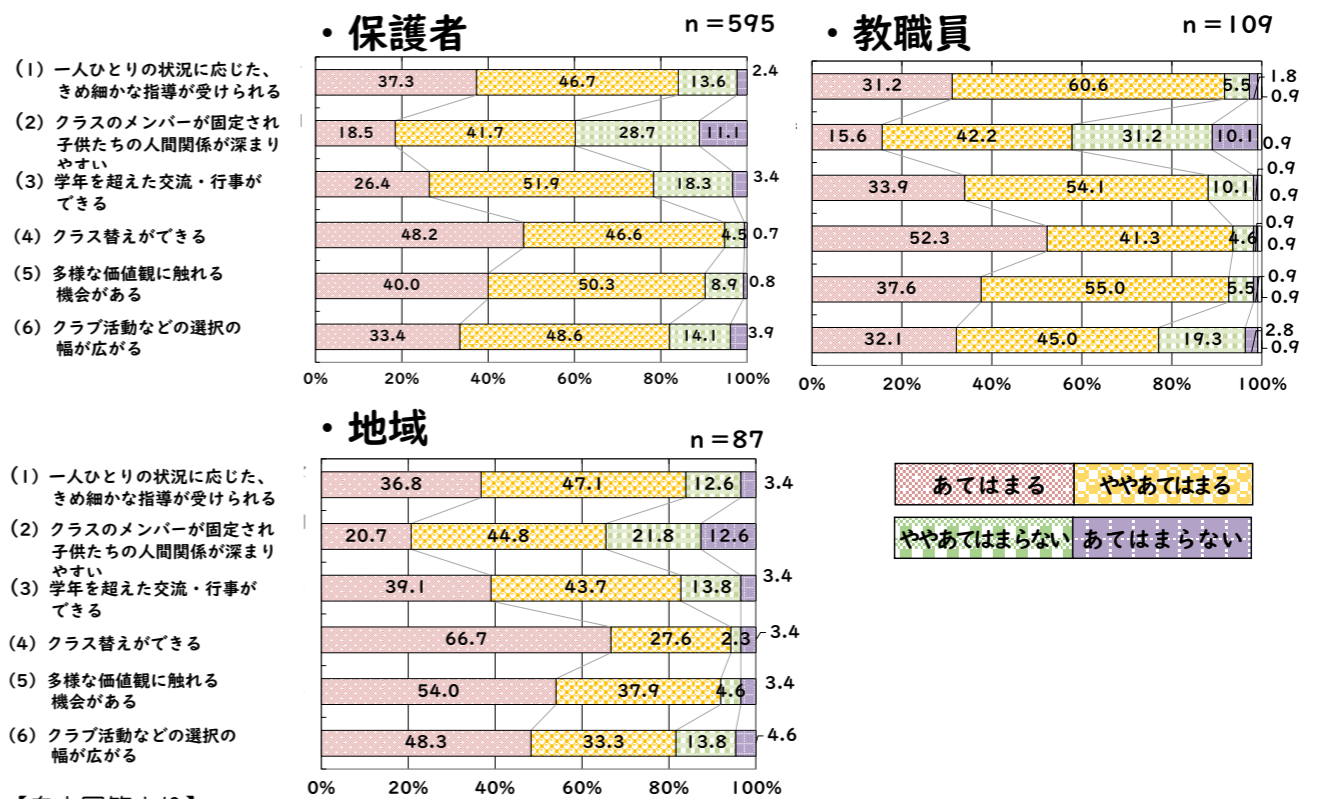
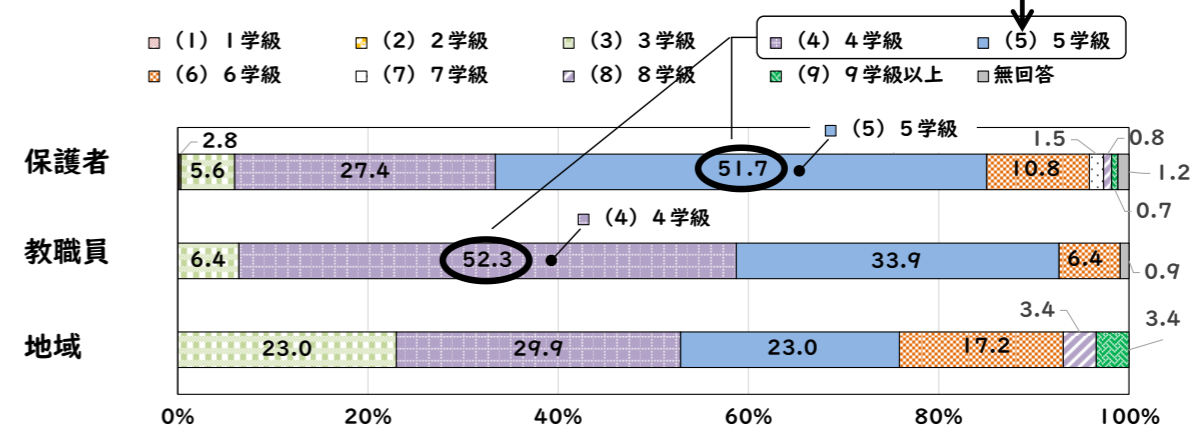
1学年あたりの望ましい学級数は、すべての属性において「3学級」が望ましいとする回答が過半数を占めている。次いで多いのは「4学級」であり、3学級および4学級の合計は、すべての属性で9割を超えていることから、「3～4学級の編成が望ましい」と考えられているといえる。

理由として、クラス替えができることと、多様な価値観に触れる機会があることが挙げられる。

● 中学校

1学年あたり望ましい学級数とその理由（中学校）

R4年度実績では、
4学級～5学級で望ましい範囲内



- 【自由回答より】
- うるさい子をばらけさせるため。つまないと行動できない子も1人で行動出来るようになると思ったから。【保護者】
 - 小クラス制で学級が増えれば、それだけ大人の目も増え、1番多感な時期の出会いが増える。【保護者】
 - 自分の学習の程度について、母数大きい方が正確に把握しやすいから。【保護者】
 - 学年の学級数が少な過ぎると人間関係でトラブルが起きた時に、クラス替えしづらい。【教職員】
 - 学級数よりは1クラスの人数の方が重要と考えるので、1クラス30人以下になるなら学級数が増えてもいいと思う。【地域】

中学校の1学年あたりの望ましい学級数は、保護者と教職員で回答が異なり、保護者は過半数が「5学級」を望ましいとしているのに対して、教職員は過半数が「4学級」を望ましいとしている。ただし、保護者と教職員のおおよそ8割が「4～5学級」を望ましい学級と考えていると判断することもできる。

なお、すべての属性で「(4) クラス替えができる」を理由として高い割合で挙げている。

1. 学校規模について

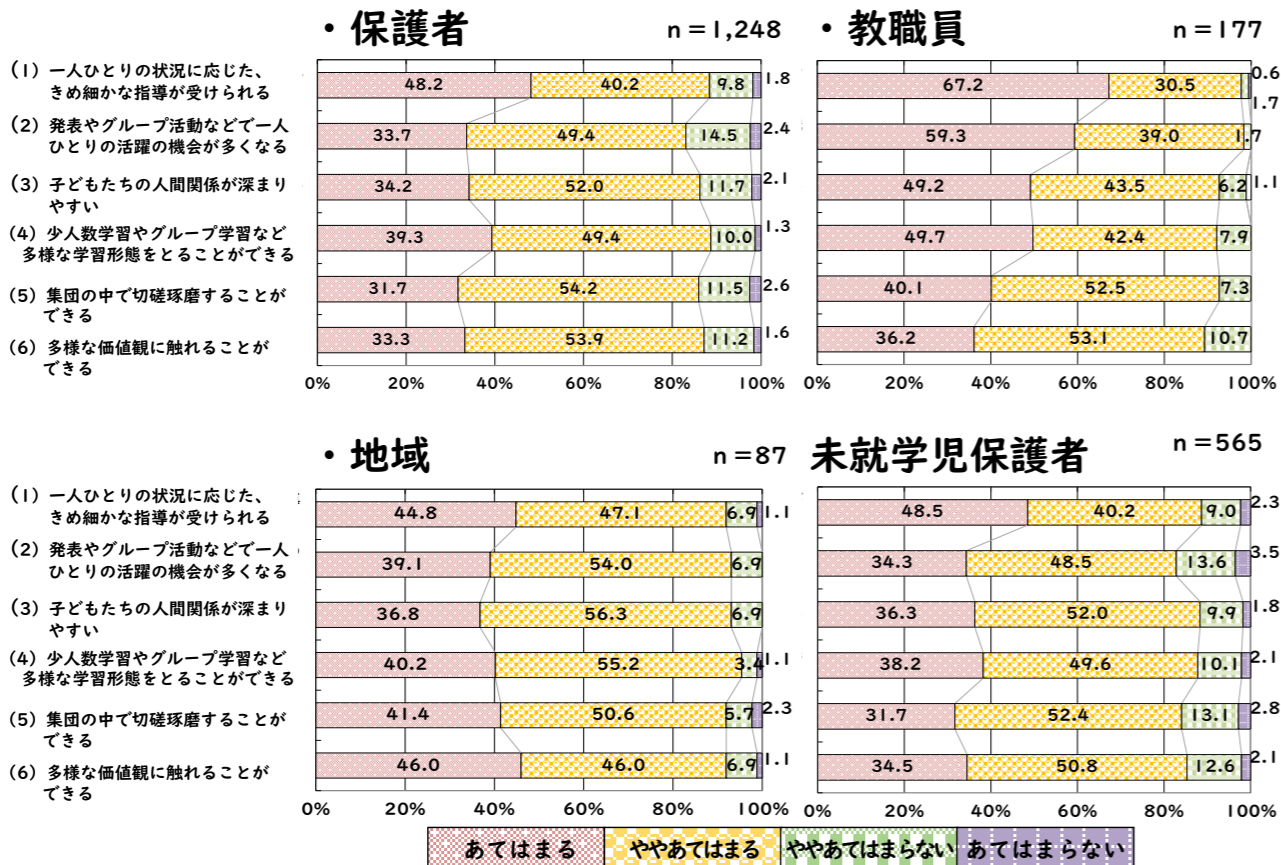
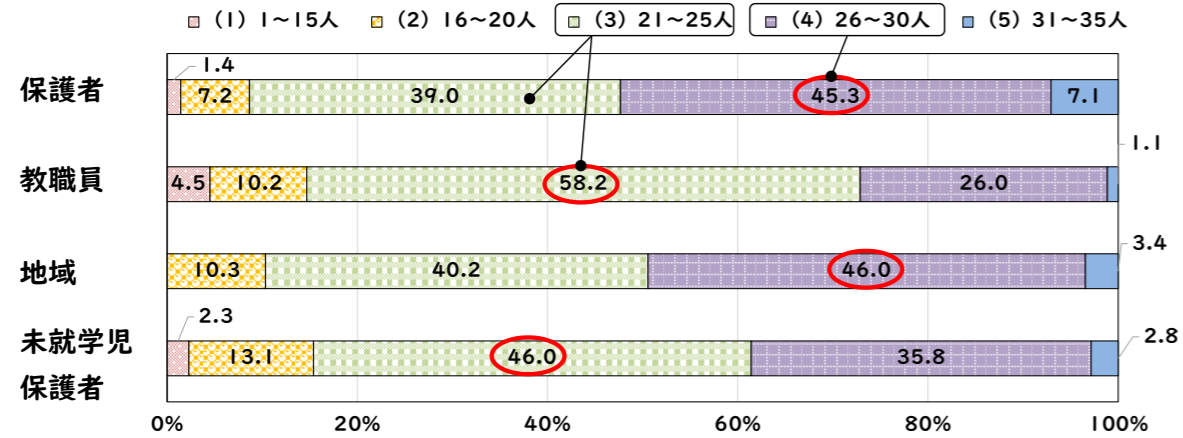
設問：小学校（中学校）の1学級当たりの人数は、どのくらいの方がいいと思いますか

(4) 座間市立小・中学校の教育環境に関するアンケートより

● 小学校

R4年度実績では、
28人/学級～34人/学級、平均30人

1学級あたり望ましい人数とその理由（小学校）



【自由回答より】

- 現在の学級編成では、担任の負担が大きいと思うため。【保護者】
- 学校とは学業を学ぶ場ですが、集団生活の基礎、社会を学んでほしいと思います。少ない人数ですと集団生活は理解できないですし、多すぎても個々の意見がまとまりにくいと思います。【保護者】
- 給食当番や、掃除当番、係り活動、委員会などを分担するのに、適度な人数だと思うから。【保護者】
- 障害や特性のある児童が増えており、児童数を少なくすることが担任の負担軽減につながる。【教職員】
- 個別指導がより必要な低学年は、1学級あたり25人以下でもよい。【教職員】
- 少なすぎず多すぎない人数の方が様々な経験が出来ると思うから。【未就学児保護者】

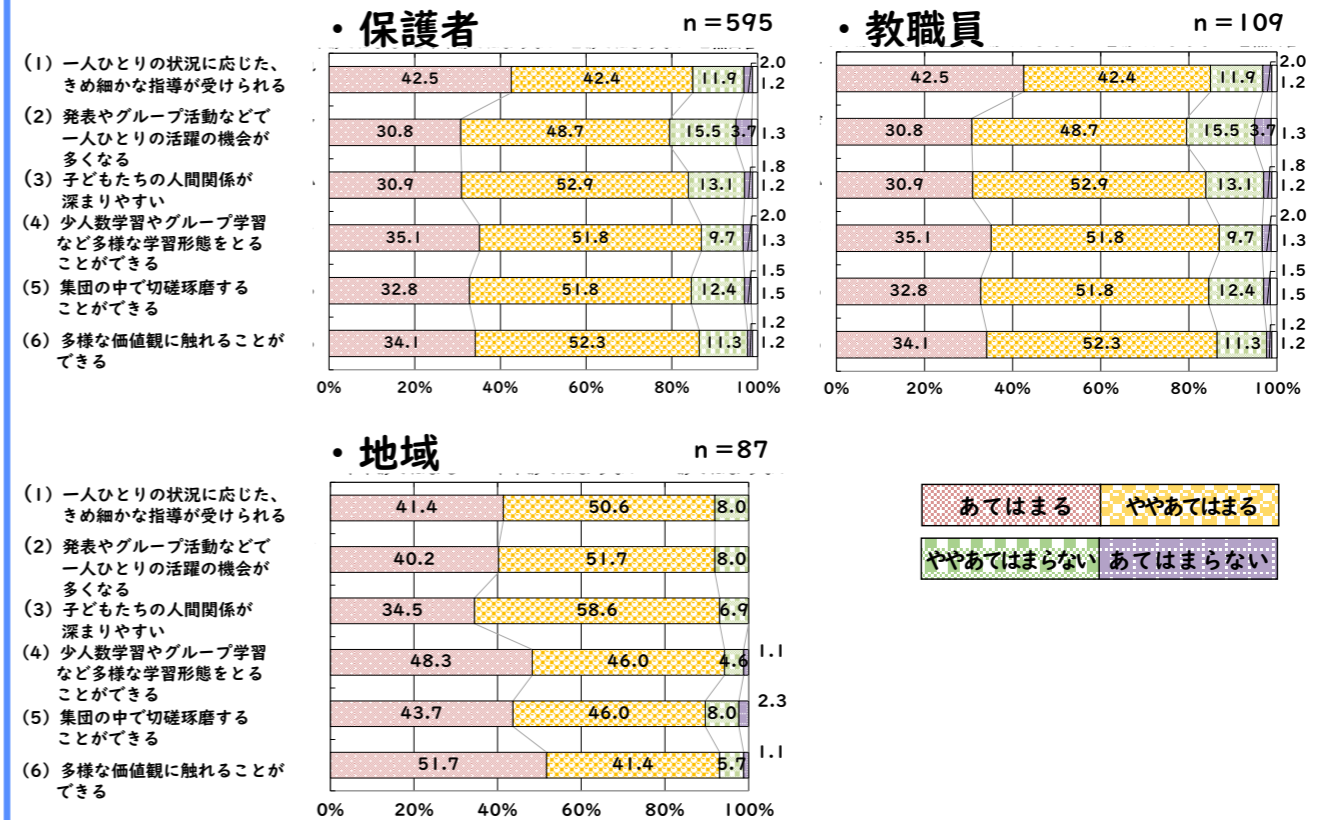
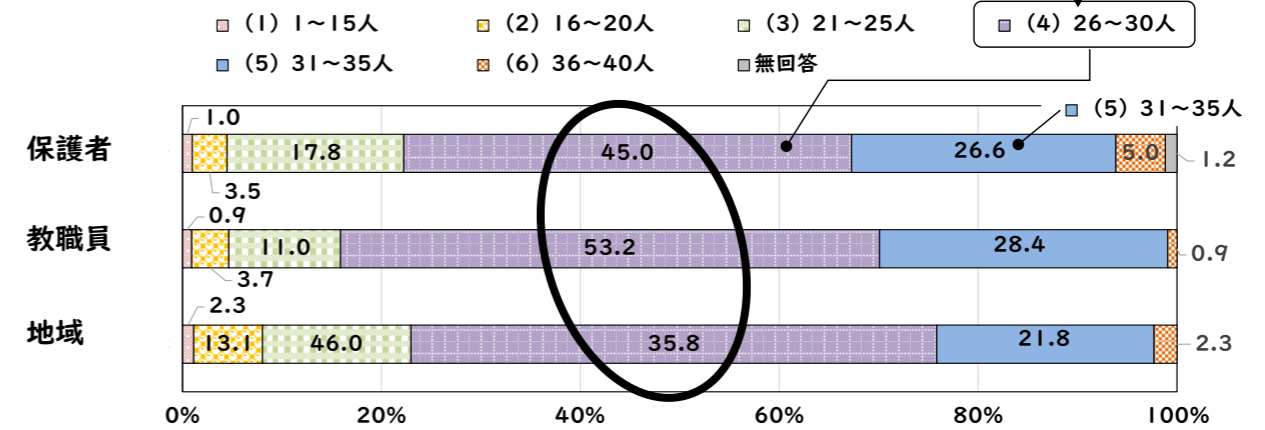
小学校1学級あたりの望ましい児童数は、保護者・地域は1学級あたり「26～30人」を望ましいとしている。一方、教職員および未就学児保護者は、「21～25人」の学級を望ましいとしている。

1学級あたりの人数については加配等による教職員配置(予算)との関係があるため、すぐ採用できるわけではないが、付帯意見として整理することが考えられる。

● 中学校

R4年度実績では、35人学級が4校、その他32人、37人。
⇒ある程度の人数はほしいが、35～37人は多いと感じている。

1学級あたり望ましい人数とその理由（中学校）



【自由回答より】

- 先生の目が一人一人に向きフォローが期待できると思う。現在、教科担任制でクラスの生徒人数も多いので揉め事なども気づいてくれないのでかなり不満がある。【保護者】
- 先生の業務が多いので、受け持つ生徒数を減らして欲しい。その方が先生から子どもへの目も行き届くように思う。【保護者】
- 教室の広さ、密度、ロッカーなどの備品利用に無理がない。【教職員】
- 少なすぎても人間関係の難しさが出てくる。【教職員】
- 多すぎると関わりを持ちにくい。【教職員】
- 1クラスの人気は少なすぎても集団活動にはならないと思うので、適度に人数は必要と思う。【地域】

中学校の1学級あたりの望ましい生徒数は、「26～30人」とする回答が全属性で最も多かった。小学校の児童数との違いでは、2番目に多いのが「31～35人」が全属性で20%台となっており、中学生の場合には小学生と比べて、ある程度大きい学級規模でいいという回答結果になっている。

2. 適正配置について

(1) 国の基準（通学距離・通学時間）

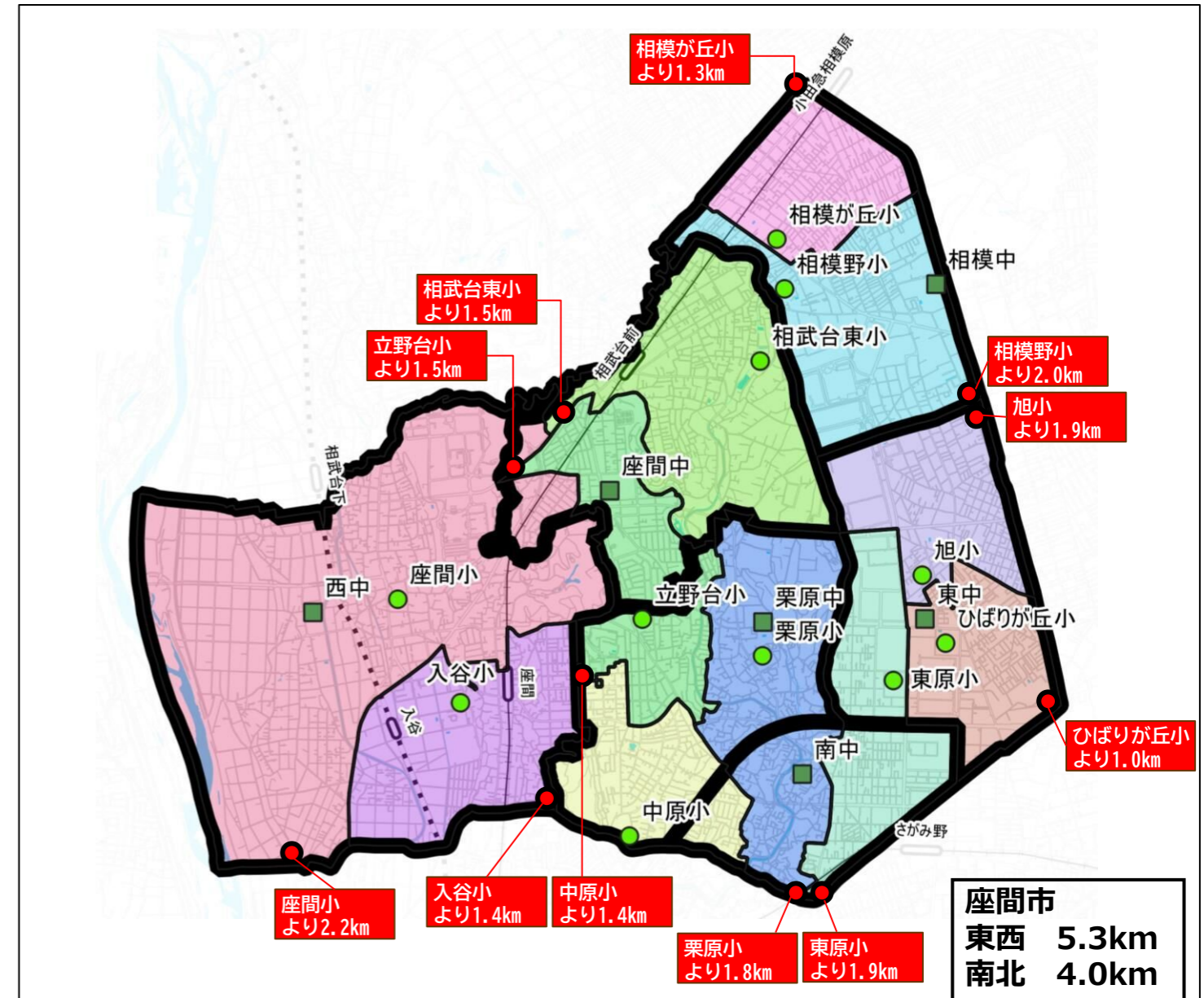
通学距離による考え方

- ✓ 文部科学省の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」によると、学校の配置に当たっては、児童生徒の通学条件を考慮することが必要であると示されています。
- ✓ 義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令では、公立小・中学校の通学距離について、「**小学校でおおむね4キロメートル以内、中学校でおおむね6キロメートル以内**」と定めていることから、通学条件を通学距離によって捉えることが一般的となっています。

通学時間による考え方

- ✓ 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、スクールバスや公共交通機関を活用した自治体の事例が増えていることを踏まえ、通学時間の観点からも各市町村の基準をもとにした検討を行っています。この結果では、「**おおむね1時間以内**」を一応の目安とし、**地域の実情や児童生徒の実態に応じて判断を行うことが適当**とされています。

(2) 座間市における通学距離(小学校)



学校名	最も遠い通学距離	おおよその地点(※)	学校名	最も遠い通学距離	おおよその地点(※)
座間小	2.2km	四ツ谷619付近	ひばりが丘小	1.0km	ひばりが丘3-67付近
入谷小	1.4km	入谷東4-76付近	旭小	1.9km	小松原2-53付近
中原小	1.4km	入谷東2-11付近	相模野小	2.0km	小松原1-45付近
立野台小	1.5km	緑ヶ丘6-1付近	相模が丘小	1.3km	相模が丘1-23付近
栗原小	1.8km	南栗原4-13付近	相武台東小	1.5km	相武台1-45付近
東原小	1.9km	さがみ野3-20付近			

※市街化調整区域等で住居のないエリアは除外しています